

番 号 : 150819

国 名 : コートジボワール

担当部署 : 社会基盤・平和構築部 平和構築・復興支援室

案件名 : 中部・北部紛争影響地域の公共サービス改善のための人材育成プロジェクト中間レビュー調査 (評価分析)

### 1. 担当業務、格付等

- (1) 担当業務 : 評価分析
- (2) 格 付 : 3～4号
- (3) 業務の種類 : 調査団参团

### 2. 契約予定期間等

- (1) 全体期間 : 2015年11月上旬から2016年1月下旬まで
- (2) 業務M/M : 国内 0.5M/M、 現地 0.97M/M、 合計 1.47M/M
- (3) 業務日数 : 準備期間 5日 現地業務期間 29日 整理期間 5日

### 3. 簡易プロポーザル等提出部数、期限、方法

- (1) 簡易プロポーザル提出部数 : 1部
- (2) 見積書提出部数 : 1部
- (3) 提出期限 : 10月14日(12時まで)
- (4) 提出方法 : 専用アドレス (e-propo@jica.go.jp) への電子データの提出又は郵送(〒102-8012 東京都千代田区二番町5番地25二番町センタービル) (いずれも提出期限時刻必着)

※2014年 2月26日以降の業務実施契約(単独型) 公示案件(再公示含む) より、電子媒体による簡易プロポーザルの提出を本格導入しています。

提出方法等詳細についてはJICAホームページ(ホーム>JICAについて>調達情報>お知らせ>「コンサルタント等契約における業務実施契約(単独型) 簡易プロポーザルの電子提出本格導入について」([http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul\\_gt/20150618.html](http://www.jica.go.jp/announce/manual/form/consul_gt/20150618.html))) をご覧ください。なお、JICA本部1階調達部受付での受領は廃止しておりますので、ご持参いただいても受領致しかねます。ご注意ください。

### 4. 簡易プロポーザル評価項目及び配点

- (1) 業務の実施方針等 :
    - ①業務実施の基本方針 8点
    - ②業務実施上のバックアップ体制等 2点
  - (2) 業務従事予定者の経験能力等 :
    - ①類似業務の経験 45点
    - ②対象国又は同類似地域での業務経験 9点
    - ③語学力 18点
    - ④その他学位、資格等 18点
- (計100点)

類似業務	平和構築分野での各種評価調査
対象国/類似地域	コートジボワール/全途上国
語学の種類	英語または仏語

### 5. 条件等

- (1) 参加資格のない社等 :  
本調査の評価対象である技術協力プロジェクトにおいて専門家業務に携わった法人及び個人は本件への参加を認めない。

(2) 必要予防接種：黄熱（入国に際してイエローカード（黄熱病予防接種証明書）が必要）。

## 6. 業務の背景

2011年4月の内戦収束以降、コートジボワールでは、治安と秩序の回復、経済の活性化をベースに着実に国家再建が進められている。中北部は2002年の内戦で旧反政府勢力の支配下となり南部と分断され、社会経済や治安面で莫大な影響を受けたが、現在では安定した状況へと回復している。

2013年11月から2016年11月迄の予定で開始した「コートジボワール国中部・北部紛争影響地域の公共サービス改善のための人材育成プロジェクト」（以下、プロジェクト）は、基礎的な公共サービス（給水、教育）の提供を担う人材育成、行政とコミュニティ間の協力関係の構築を通じて、より住民のニーズに合致した公共サービス提供実施体制の改善と同体制のモデルを構築することを目的として、ベケ州にて実施している。

本プロジェクトでは特に、2011年の法制により編成された地方分権体制下にある州・コミューン（以下、地方自治体）が、現時点においても残存している地方分散体制下の中央政府出先機関（以下、州出先機関）の支援を受けつつ、両者の連携体制による公共サービス提供の仕組みづくりを目指している。

プロジェクトを開始して約1年10か月が経過し、ベケ州内の全村落を対象としたベースライン調査を経て、開発に必要とされるデータの整備、セクター別開発計画の策定、ステークホルダー間の実施体制の決定、パイロット事業地の選定が行われた。地方自治体による事業実施能力強化および各ステークホルダーの協働体制構築の一環として、入札、契約、施工監理、完工・瑕疵検査、維持管理の一連の流れを学ぶため、パイロット事業は小学校施設の改修・増築と給水施設の新設・改修を実施中である。また、教育分野においてはコートジボワール政府が学校運営委員会（COGES）の設置を推奨しており、機構がコートジボワール周辺国で実施してきた「みんなの学校」アプローチ<sup>1</sup>によりCOGES機能強化を通じて、行政と住民の協働による公共サービス強化を目指す活動も実施している。

今回実施の中間レビュー調査では、上記進捗を踏まえ、主要C/P機関である内務省と合同で本プロジェクトの目標達成度や成果等を分析するとともに、紛争影響国・地域特有の事業評価の支援を踏まえた事業評価を行い、プロジェクトの残り期間の課題及び今後の方向性について確認し、合同評価報告書に取りまとめ、合意することを目的とする。

## 7. 業務の内容

本業務従事者は、技術協力プロジェクトの仕組み及び手続を十分に把握の上、プロジェクトの協力について当初計画と活動実績、計画達成状況、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）を確認するために、必要なデータ、情報を収集、整理し、分析する。なお、JICA事業評価における評価基準・手続については監督職員より情報提供を行う。また、紛争影響国・地域特有の事業評価の視点については、契約開始時に担当室よりブリーフィングを予定している。

具体的担当事項は次のとおりとする。

### [評価分析]

(1) 国内準備期間（2015年11月上旬～中旬 5日間）

- 1) 既存の文献・報告書等（事業進捗報告書、合同調整委員会議事録、活動実績資料等）をレビューし、プロジェクトの実績（投入、活動、アウトプット、プロジェクト目標達成度、プロジェクトの不安定要因・安定要因等）や実施プロセスを整理・分析する。
- 2) 既存のPDMに基づき、プロジェクトの実績、実施プロセス及び評価5項目ごとの調査項目とデータ収集方法、調査方法等を検討し評価グリッド（案）（英文）（紛争影響国・地域特有の事業評価の視点も含む）を作成する。また、既存のデータ・情報と現地ですべての情報を整理する。
- 3) 上記評価グリッド（案）に基づき、プロジェクト関係者（プロジェクト専門家、C/P機関、

<sup>1</sup> 地方行政と地域住民（コミュニティ）の協働による学校運営改善により、就学率や教育の質向上を目指すアプローチであり、ニジェールやセネガルでも事業が実施されている。

その他コートジボワール側関係機関、他ドナー等）に対する質問票（案）（英文）を作成する。

- 4) 調査団内の検討の為、評価グリッド（案）を用いて評価デザイン（案）を検討する。
- 5) 国内で収集可能なデータを整理・分析する。
- 6) 対処方針会議等に参加する。

(2) 現地派遣期間（2015年11月中旬～12月中旬 29日間）

- 1) JICAコートジボワール事務所との打合せに参加する。
- 2) プロジェクト関係者に対して、評価手法について説明を行う。
- 3) 上記(1)2)で作成し、コートジボワール側C/Pと協議した評価グリッドに基づき、事前に配布した質問票を回収・整理するとともにプロジェクト関係者に対するヒアリング等を行い、プロジェクト実績（投入、活動、アウトプット、プロジェクト目標達成度等）、実施プロセス等に関する情報・データの収集・整理を行う。この際に、プロジェクト関係機関が多いため、対象機関への調査を効率的に実施するよう留意する。
- 4) 上記3)で収集した情報・データを分析し、プロジェクト実績の貢献・阻害要因を抽出する。
- 5) 国内準備作業並びに上記3)及び4)で得られた結果をもとに、他調査団員及びコートジボワール側C/Pとともに評価5項目（紛争影響国・地域特有の事業評価の視点も含む）の観点から評価を行い、合同評価報告書（案）（英文）を取りまとめる。
- 6) 合同評価報告書（案）に関する協議に参加し、協議を踏まえて同案を修正し、最終版の作成に協力する。
- 7) 調査結果や他の調査団員及びコートジボワール側C/P等からのコメント等を踏まえたうえで、PDMの修正案（和文・英文）の取りまとめに協力する。
- 8) 担当分野に係る合同評価報告書（案）（英文）を作成する。
- 9) 協議議事録（M/M）（英文）の作成に協力する。
- 10) JICAコートジボワール事務所への現地調査結果の報告に参加する。
- 11) 合同評価報告書（仏文）、協議議事録等（仏文）作成にあたり、JICAコートジボワール事務所の備上する通訳・翻訳担当者に協力する。

(3) 帰国後整理期間（2015年12月中旬～12月下旬 5日間）

- 1) 評価調査結果要約表（案）（和文・英文）を作成する。
- 2) 帰国報告会に出席し、担当分野に係る報告を行う。
- 3) 担当分野の調査結果を取りまとめ、中間レビュー調査報告書（案）（和文）の作成に協力する。

## 8. 成果品等

本契約において作成する報告書等は以下のとおり。なお、本契約における成果品は(1)～(3)のすべてとする。

- (1) 合同評価報告書（英文）
  - (2) 担当分野に係る中間レビュー調査報告書（案）（和文）
  - (3) 評価調査結果要約表（案）（和文・英文）
- 上記成果品の体裁は簡易製本とし、電子データを併せて提出することとする。

## 9. 見積書作成に係る留意点

本公示に係る見積書の積算にあたっては、「JICAコンサルタント等契約見積書作成のガイドライン」(<http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/quotation.html>)を参照のこと。留意点は以下のとおり。

- (1) 航空券・旅費（日当・宿泊費）は契約に含む（見積書に計上すること）。  
航空便経路：成田/羽田⇔ドバイ⇔アビジャンを標準とする。

## 10. 特記事項

### (1) 業務日程／執務環境

#### 1) 現地業務日程（官団員現地調査期間）

現地派遣期間は2015年11月15日～12月13日を予定。

当機構の調査団員は本業務従事者から約1週間遅れて現地調査を開始予定です。

大統領選挙の影響で、現地派遣期間が前後する可能性があります。

#### 2) 現地での業務体制

本業務に係る調査団構成は、以下を予定しています。

- ・ 総括・平和構築（JICA）
- ・ 評価企画（JICA）
- ・ 評価分析（コンサルタント）

#### 3) 便宜供与内容

プロジェクトチームまたはJICAコートジボワール事務所による便宜供与事項は以下のとおり。

##### ① 空港送迎

あり

##### ② 宿舍手配

あり

##### ③ 車両借上げ

全行程に対する移動車両の提供（機構職員等の調査期間については職員等と同乗することとなります。）

##### ④ 通訳・翻訳者備上

必要に応じ、JICAコートジボワール事務所が仏語・現地語通訳の支援または手配を行う。

##### ⑤ 現地日程のアレンジ

現地ヒアリング調査のスケジュールアレンジ及びC/Pの同行。

### (2) 参考資料

①本業務に関する以下の資料は、JICA社会基盤・平和構築部平和構築・復興支援室（Tel.03-5226-6943）にお問い合わせ下さい。

- ・ コートジボワール国中部・北部紛争影響地域の公共サービス改善のための人材育成プロジェクト詳細計画策定調査報告書
- ・ PDM最新版

②本業務に関する以下の資料が当機構のウェブサイトで公開されています。

- ・ プロジェクト基本情報

<http://www.jica.go.jp/oda/project/1300782/index.html>

### (3) その他

1) 業務実施契約（単独型）については、単独（1名）の業務従事者の提案を求めている制度であるため、複数の業務従事者によるプロポーザルは無効とする（冒頭留意事項参照）。

2) コートジボワール国内での作業においては、機構の安全管理措置を遵守するとともに、機構総務部安全管理室、JICAコートジボワール事務所の指示に従い、十分な安全対策措置を講じることとします。突発事項の発生あるいは機構からの安全管理上の指示によりやむを得ず行程の変更や延長が発生する場合には、随時協議し決定します。

3) 本業務の実施にあたっては、「JICA 不正腐敗防止ガイダンス（2014年10月）」の趣旨を念頭に業務行うこと。なお、疑義事項が生じた場合は不正腐敗情報相談窓口またはJICA 担当者に速やか相談するものとします。

以上